

「平成29年6月1日に思う」

大きな夢と希望をもった次代の社会や地域を担う若者たちが、水源地の村づくりを体感しました。

4月14日、「奈良にふれよう」をテーマに、今年度奈良県に採用された新人職員の研修が、また4月18日、20日の両日には、「水源地の村づくりを知り未来を考える」をテーマに、奈良県を代表する企業の一つである南都銀行の新人行員の研修が本村にて行われました。それぞれ新人研修の一環として実施されたものですが、その大事なプログラムに「水源地の村」を選んでいただいたことに深く感謝しています。研修では、水源地の村が果たす役割とその取り組みを学んだあと、樹齢100年を超える吉野杉の伐採見学を通じて吉野林業の歴史を肌で感じてもらいました。まさに「水源地の村のことを知って、学んでほしい人たち」に、深緑の川上村を存分に体感していただけたと思います。

また、4月13日に行われた「最近の金融経済情勢について」の講演では、日本銀行大阪支店の宮下副支店長が、本村の生産と消費の現状のデータをもとに、「人口減少と高齢化にある村で、小売業販売額がやや右肩上がりである要因は、活発な交流人口にあるのではないか」と分析されていました。まさにその講演のとおり、このゴールデンウィークには、匠の聚、中井溪谷や白川渡オ

ートキャンプ場などの各施設が多くの来訪者でにぎわいました。

水源地の村づくりとともに、人が“行き交う”ことにも引きつづきこだわって
いく思いです。